

## JOMF 派遣医師便り (2016. 1)

### ◆シンガポール◆

## SWAT 構築へ～シンガポール保健省

シンガポール日本人会クリニック

日暮 浩実

先ごろ、MOH (Ministry of Health, シンガポール保健省) は SWAT team (Special Weapons And Tactics) を作ると発表した。といっても、もちろん、テロ対策ではない。感染症の脅威に、なるべく短時間で初期行動を起すことを可能にすることがその目的である。

シンガポールは、他の多くの国と同様に、かつては衛生的ではなく、様々な感染症に悩まされていた。しかし、経済の発展と共に上下水道など衛生環境を整備し、衛生教育を行い、かつて多かった腸チフスなど水系感染症はほとんど姿を消した。西暦 2000 年にはポリオ (飛沫感染もある) を根絶したことが、WHO (World Health Organisation, 世界保健機構) から認められた。

しかし、近年のグローバリゼーションに伴い、危険な感染症が、落下傘的に、おそつてくる可能性が、世界のどこでも、以前よりも高くなった。主に東南アジア地域で流行した 2003 年の SARS、世界流行した 2009 年の H1N1 インフルエンザや、西アジアで流行していた MERS が昨年、韓国で突発的に流行した事例は記憶に新しい。また、エボラウイルス病も、まだ制圧されたわけではない。最近は中南米でジカ熱の流行も報道された。

アメリカには CDC (Center for Disease Control and prevention), そしてその下部組織として EIS (Epidemic Intelligence Service) があり、アメリカ各地で散発する感染症にいち早く対応し、感染を抑えこんでいる。

シンガポールでも、このような即座に動ける組織を構築するということである。国際的な人的、物的交流の一大中心地として、将来を見据えた取り組みであろうと思う。

### 追伸 :

当院はシンガポール日本人会の下部組織でもあるため、日本人会のマスメールなどを使い、シンガポール国内および国外の医療情報等を成るべく早くお伝えしたいと思っています。一例として、先月末、30 日にミャンマーでのポリオの流行が危惧されることから、渡航者にワクチンを勧奨するメールを配信いたしました。

本年もどうぞよろしく御願いもうあげます。